



木 木 木

千葉県 TEACCH プログラム研究会

2024 年 12 月 15 日(日) 第 130 号

「森」字・佐々木正美
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部

ホームページ：<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS 内

TEL :043-227-8557



第4回 連続セミナー

「自閉症のある子どものペアレントトレーニング ～多様な支援の在り方と実際～」

鳥取大学教授

井上 雅彦 氏

10月に行われた第4回連続セミナーでは、鳥取大学教授の井上雅彦先生をお招きして TEACCH プログラムが大切にしている「協働」を支える「ペアレントトレーニング」について教えていただきました。自閉症スペクトラム障害（ASD）、知的障害、ADHD などの発達障害のある子どもの親は、高いストレスを抱えており、精神的健康の低下が示されています。障害への理解を深める知識だけでなく家庭での関わり方を身に付けることを目的として実施されているペアレントトレーニングの実際を数多くのケースを基に具体的にお話いただき、スタッフのサポートの心得も含め貴重な学びの場になりました。

家族支援の重視

- ASD のある子どもの親は、定型発達の子どもの親、精神医学的疾患のある非 ASD のある障害を持つ子どもの親と比較して高いストレスリスクがあり、うつ病や不安など心理的症状を発症するリスクが高いことが示されている。
- 発達障害者支援法改正により家族、関係者に対し適切な対応、情報提供・助言、互いに支え合うための活動という内容が明確に盛り込まれた
- 発達障害者支援法改正は、発達障害の疑いがあり、診断のない児童の保護者においても相談・情報提供による支援の必要性が明記されたことで「支援はしなければならない」こととなっている
- ASD や発達障害のある子どもの親支援としてペアレントトレーニング（以下 PT と記す）が世界の多くの国で推奨されている。（WHO、2016）
- PT は、親の子育てスキルや精神的健康を向上させるだけでなく、子どもの適応能力を高め、行動問題を軽減できることを示している。
- 日本において、発達障害のある子どもとその家族への対応は、国内における大きな優先事項となっている。

ペアレントトレーニングとは

- 1960 年代から米国を中心に発展してきた。
- PT では、子どもの行動変容を目的として、親がほめ方や指示などの具体的な養育スキルを獲得することを目指している。
- PT では、講義による知識の獲得だけでなく、ロールプレイや演習を行うことで、養育スキルを獲得し、家庭で親が宿題として実際にやってみることで日常生活で子どもの行動改善や発達促進が期待できる。

ペアレントトレーニングの実際(鳥取大学式)

- 対象：幼児期から小学3年生の子ども（発達が気になる子、知的障害、ASD、ADHD）
グループ人数：5人から10人程度、回数：5回、8回、時間：1回90分から120分
構成：講義とワーク、ホームワーク、スタッフ：ファシリテーター（プログラムリーダー）、サポートスタッフ（参加者のサポート）、ペアレントメンター（親視点からのサポート経験談、支援グッズの紹介、信頼のおける相談相手）
- ペアレントメンターによる効果として、メンターが研修の中で得た知識や技能が役立つ。自身の子育て経験や作成支援グッズなど具体的道筋が参加者に伝わりやすい。
- PTへの参加者に対して様々な評価アンケートを実施（S-M社会生活能力検査、KIDS乳幼児発達スケール、SDQ子どもの強さと困難さアンケート、CBCL子どもの行動チェックリスト、保護者ヘストレス反応や不安、抑うつを評価するアンケート等）
- 令和4年度障害者総合福祉推進事業（厚生労働省）において、PTの効果検証を行うための評価尺度（Parent Training Assessment Scale:PTAS 3歳から12歳を対象とした60項目からなる）が作成されたものを実施。

ポイントは「ほめる」

- PTでは「ほめ上手」になることが大切。ほめる気持ちがなくても技術として習得。
- 事例を出し、グループでほめ言葉を考えて共有したり、ロールプレイを実施したりする。
- ホームワークでほめることを実施。その後振り返りも共有、他の人の上手なやり方を聞いて取り入れる。
- トークン・システムを活用することで目的が明確になる。その場でものや活動を用意しなくてもよい。将来、就労したときに、給料の仕組みを理解しやすくする。
- トークンの活用のコツとして、初めは好きな活動やものが簡単にもらえるようにする、あらかじめ本人に知らせておく。好みの活動やものを選択できるようにする。課題の難易度によって一度にもらえるポイントに差をつける。ポイントを渡すときに同時に言葉や態度でもほめることを忘れない。
- スタッフも受講者の発言やワークを具体的にほめ、気づきを促すサポートが重要。
- 困った行動をしていなければほめ、環境を整え、刺激を整理する。また、事前に予定を視覚的に示すことも効果的

支援を広げるために

- WEBでPTを実施することは、いつでも復習でき、地域の制約を受けず、移動の労力がない利点がある。
- 発展形のPTとして、インターネット、思春期、場面緘黙、睡眠障害、子どもの年齢段階によるプログラム等。
- 家族支援加算の活用、各自治体での委嘱、学校におけるPTAの企画研修などが挙げられる。



千葉県 TEACCH プログラム研究会第6回連続セミナー紹介

日時：2025年2月16日（日）14:00～16:30

内容：家庭・学校・施設の実践報告

講師：保護者

柏市立松葉第一小学校教員

社会福祉法人いちよの里みずほ学園施設職員

会場：千葉県教育会館604会議室（千葉市中央区中央4-13-10）

【編集後記】講義の中で、受講生の緊張を高めないために工夫することや配慮することが大切であると教わりました。支援するうえで本人や保護者へのリスペクトを忘れずにいることだと改めて思いました。また、関係機関とfacetofaceで連携することもコロナ後だからこそ大事にしたいです。ネット配信の研修も良いですが対面にてリアルタイムで感じる学び、仲間と共に学ぶ良さも新たな関係や広がりを生むチャンスだと思いました。みなさん、一緒にリアルタイムで学びましょ♡（吉村）